

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたん



第80号
平成20年
8月23日

心技一体 ブランドを支える 猪瀬商店

「ここの靴かばんにしてくれ」
イタリアを代表するメンズブランド
「ゼニア」のイタリア人バイヤーを唸ら
せたのは荒川1丁目にあるの猪瀬商店の
鞆です。

「人ができる事は自分もできる」
紳士鞆手作り製造の猪瀬商店の昇さん
(56歳)は大学在学中から、弟の広清さ
ん(54歳)と共に先代の幸男さんの仕事
を真似ることから鞆職人の道に入り、こ
の道30年が経ちました。牛革を主に作っ
ていますが、バブル時には、高価な象や
カバ、さめの革の鞆も依頼されて仕上げ
たこともありました。

「物作りには道理がある」
幸男さんの教えを守り、お客さんを納
得させる商品を作ることを念頭におかれ
ています。ブリーフケース(書類用鞆)
・ビジネスバッグ、シヨルダーバッグ等
紳士鞆といっても様々な種類があります。
商品の特性、効用、あるいはどのような
にイメージを構築したらいいのかを明確
にして、それに基づいて素材、作り方、
仕上げ方を変えていきます。革の選定も
業者任せではありません。自身で確認し
納得するまで図面をミリ単位でデザイナー

とすり合わせます。裁断・縫製まで多く
の工程を経て、全て手作りで作成してお
ります。

「ハンドルで鞆の顔が変わる」

猪瀬商店の鞆のこだわりは、ハンドル
(取っ手)にあります。ハンドルこそが
「鞆の命」という猪瀬さん。ハンドルは
鞆で最も身体に触れる部分「最も良い革
を使わないといけない」と芯材にゴム、
木枠等を使わずに2ミリの革を重ねて張
り合わせてから、本磨きと呼ばれる手作
業が行われます。このように労を惜しま
ないで作られた手縫いのハンドルは、完
成度が高く修理依頼がほとんど来ません。

また、カンナとやすりをかけて磨き上
げて仕上げるコバ(革の切り口)断面に
は職人の腕前や革の品質が表れますが
「ミガキの猪瀬」と業界で言われてい
るだけのある納得の重厚感、高級感を感
じさせる美しい仕上がりです。

ブランドは、商品が良質という信頼の
無形財産です。この猪瀬商店の鞆は、(株)
銀座タニザワと明治から続く老舗(株)青木
の主力ブランド品となってお客様の手に
渡ります。皇室御用達の銀座タニザワは
創業者が明治時代「鞆」という字を考案
し、日本で始めて国産バックを作った会
社です。(株)青木で卸された鞆は、青木以
外に丸井や三越などの全国のデパートの
売り場に並びます。

昔は革鞆が当たり前でした。ナイロン
バッグの普及により革鞆は重い、高価、
キズが気になると一時敬遠されましたが、
近年は本物志向で見直されてきています。

革鞆には、丈夫で長持ちである上に使い
込めば使い込むほど味が出てくる革なら
ではの味わいがあります。また、今はな
かなか感じることでなくなつた職人
の手の温もりが感じられます。

猪瀬商店の革鞆には、経験に培われた
技術だけでなく、使う人の立場に立つて
の工夫やこだわりの職人魂が一針ずつの
手縫いの縫い目やコバの輝きに表れてい
ます。

昭和の香りのする工房には、静かな作
業の音が流れ、使い込まれた道具が芸術
品のような落ち着きをもたらしてくれま
す。見せていただいたハンドルは、本当
に美しく、誠実な気持ち
と重厚感が握ったハンド
ルから伝わってきます。

猪瀬商店の革鞆は、黒
子になって主役の持ち主
をきつと輝かせてくれる
と思います。使い込んで
自分色になる猪瀬ブラン
ド、欲しく
なる一品で
す。



猪瀬商店
荒川区荒川1丁目24-7
TEL (3891) 5827
FAX (3806) 5829